

「未来型畜産システム研究シンポジウム」の概要

5月27日、生研機構との共催により「未来型畜産システム研究シンポジウム」を開催した。趣旨は、自動化・高精度化のニーズが高い酪農分野にバイオセンサーやITなど異分野の新技术を積極的に導入した未来型の飼養管理技術を構想する研究会の立ち上げである。話題提供は3部構成として、各分野の第一線で活躍する研究者の方々に講師をお願いした。第1部では異分野を専門とする3名の講師から、バイオセンサー、マルチチャンネル電極(味覚センサー)および人工知能による多次元要素解析技術について講演頂いた。また、第2部では畜産を専門とする2名の講師から、乳牛の栄養管理および健康管理の高度化に有用な乳汁や血液のモニタリング要



素について、第3部では、技術の導入事例として味覚センサーの適用事例および搾乳ユニット自動搬送システムの概略について、各々講演頂いた。最後のパネルディスカッションでは、牛の栄養情報、内分泌情報、免疫情報、味覚情報等を新しいセンシング技術で測定する方法について情報交換と議論が進み、盛況のうちに閉会することができた。

現状では、バイオセンサー等はラボ用分析機器であり生産現場への導入に馴染まない。しかし、検出素子や検出回路における技術革新が進めば小型化・低価格化されて適用が可能になる。また、複数のセンサー情報を組み合わせたセンサーフュージョンによって、高精度・高機能なシステムが構築できると期待される。異分野との連携は緒についたばかりであり、現在、具体的な技術開発を目指す研究会の立ち上げに向けて準備を進めているところである。今後、各方面の専門家の意見を取り入れながら研究開発方向を固めていきたいと考えており、関係者の皆様のご支援をお願いしたい。

最後に、本シンポジウムは農林水産省と(社)畜産技術協会の後援を得て開催し、産学官の幅広い分野から230名を超える方々にご参集頂いた。講師の方々を始め、準備等にご尽力頂いた後援各位および参加者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(企画調整部連絡調整室 本田善文)